

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

5月後半着	1,060.00	(26.00)
6月前半着	1,053.00	(24.00)
6月後半着	1,048.00	(23.00)
7月前半着	1,044.50	(22.50)
7月後半着	1,041.75	(22.25)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月前半着	+13.50	+7.50
5月後半着	+10.75	+6.50
6月前半着	+6.88	+3.75
6月後半着	+4.44	+1.88

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	MAY
WTI	107.12
BRENT	122.75

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

13日のナフサ C&F JAPAN は 1031.75 ドルと反発、クラックスブレッドは大幅上昇。堅調なガソリン市場とブラジルから纏まったナフサの手当てが見られたことから、欧州市場でクラックスブレッドが大きく上昇したことを受け、アジア市場もブルなムードで始まった。アジアのファンダメンタルズは供給が必要に追いついていない状況でタイト感がさらに強まっており、欧州市場から裁定玉が流入しないとアジアの需要を満たすことが出来ないとの見方が大半だった。欧州市場は期近玉がタイトな状態にあるものの、通常ナフサが供給過剰にあることから徐々にタイト感が薄れ、アジアへ玉が流れるとみられていた。しかし、欧州市場には未だ余剰玉が見られず、一向に逼迫感が収まっていないことから、アジア市場では焦った買い手が期近玉の手当てに動きバックバーデーションが深まった。ブラツタイムは、積極的な買い手がクラックスブレッドを押し上げ、大幅に上昇した。本日のアジア市場は、強く推移した欧州市場の強地合いを受け、買い手優位の展開が続くことが想定される。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比)	予想値/評価値	速報値/(前日比)
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	891.37	82.49	51,101	(±0)		
11-1Q			50,120		52,100	(±0)
11-Apr	983.14	82.45	56,335	(40)		
11-May	1,037.43	83.72	60,360	(422)		
11-Jun	1,055.12	83.73	61,398	(1,057)		
11-2Q			59,364		61,400	(500)
11-Jul	1,051.40	83.74	61,193	(1,059)		
11-Aug	1,048.02	83.76	61,009	(1,022)		
11-Sep	1,045.55	83.78	60,880	(1,009)		
11-3Q			61,027		63,000	(1,000)
11-Oct	1,043.57	83.80	60,781	(1,012)		
11-Nov	1,041.78	83.83	60,695	(1,024)		
11-Dec	1,040.03	83.86	60,614	(1,039)		
11-4Q			60,697		62,700	(1,000)
12-Jan	1,038.19	83.89	60,533	(1,057)		
12-Feb	1,035.77	83.94	60,422	(1,085)		
12-Mar	1,032.40	83.98	60,258	(1,112)		
12-1Q			60,404		62,400	(1,100)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2100 円と予想値に変更はない。為替通関レートは円高に振れたものの、本日のナフサ C&F JAPAN 評価値の上昇想定幅が上回り、MOF 評価値は値を上げることが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 500 円高の 6 万 1400 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	107.11	(0.86)
	JUN	107.71	(0.74)
ICE / BRENT	MAY	122.88	(1.96)
	JUN	122.33	(1.90)

Oil Products(セント/gal)(ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	324.24	(7.83)
NYMEX / Heating Oil	MAY	320.28	(3.02)
ICE / Gas OIL	APR	1,014.75	(6.25)

[マーケットコメント]

13日の原油相場は、ロンドン市場、NY市場ともに反発。ガソリン在庫の予想以上の大幅な取り崩しを受け、RBOB相場が急反発した動きに連れ原油相場も買いが先行した。直近の急落に対する反動もあり、WTI期近5月限は3営業日ぶりに反発。

米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間石油統計で、ガソリン在庫は前週比700万バレル減と事前予想を大幅に上回る減少となった。一部の製油所の操業停止により稼働率が低下し生産量が若干落ち込んだことや、需要が急速に増えたことから、在庫は大幅に取り崩された。前週対比での減少幅としては、762万8000バレル減となった1998年10月9日の週以来の大幅減少。在庫は過去5年レンジ内に収まっているものの、前年同期に比べると5.3%下回っており、需給タイト感からRBOB相場に買いが集まった。また、中間留分在庫も予想外に減少したこともあり、石油製品相場主導で石油市場全般が上昇する格好に。石油製品相場の上昇に連れられるとともに、直近の大幅な下落に対する修正もあり、自律反発的な買いも入ったとみられる。ただし、原油在庫は予想以上に増えており、かつ受渡場所であるオクラホマ州クッシングの原油在庫も過去最高水準となっていることもあり、買い一巡後は売りが集まる場面も見られた。

トピックス

「ガソリン在庫、予想以上の急減 = EIA」

エネルギー情報局(EIA)が発表した週間石油統計(4月8日までの1週間)によると、原油在庫は前週比162万7000バレル増の3億5929万1000バレルと6週連続で増加し、事前予想(100万バレル増)を上回る増加となった。在庫水準は前年同期比1.5%増と前週の0.4%増からプラス幅を拡大。生産量は日量563万5000バレル(前週比3000バレル減)とほぼ変わらずで、高水準を維持している。輸入量は同857万1000バレル(同37万9000バレル減)と減少した。供給量が減少するなか、製油所への総投入量は同1440万6000バレル(同43万9000バレル減)と減少し、投入量の減少から製油所稼働率は81.42%と2.95pt低下した。なお、クッシング在庫は前週比2万6000バレル増の4189万6000バレルと小幅に増加し、過去最高を記録している。SPRは、前週比変わらずの7億2654万2000バレル。

ガソリン在庫は2億0967万9000バレル(前週比700万バレル減)と、事前予想(90万バレル減)を大幅に上回る減少となった。8週連続の減少。在庫水準は前年同期比5.3%減と前週の2.6%減からマイナス幅を大きく拡大している。生産量は日量885万バレルと前週から同4万1000バレル減少した。輸入量は同88万9000バレルと前週から同18万8000バレルの減少。供給量が減少するなか、需要は同918万1000バレル(同32万8000バレル増)と大幅に増加した。前週比では需要増供給減の構図から、在庫減少幅は前週よりも大幅に拡大した。なお、4週平均ベースの需要は同899万4000バレルと前年同期(同913万7000バレル)を1.6%下回っている。11日の全米レギュラーガソリン小売価格は前週比10.7セント高の379.1セントと3週連続の値上がり。2008年9月中旬以来の高水準。

中間留分在庫は前週比268万1000バレル減の1億5083万9000バレルと、事前予想(20万バレル増)に反して減少した。在庫水準は前年同期比2.8%増と前週の5.4%増からプラス幅を縮小。なお、中間留分在庫のうちディーゼル油在庫(ULSDおよび50-500ppmの従来型ディーゼル油)は前週比236万バレル減と4週ぶりの減少。一方のヒーティングオイル在庫(500ppm以上)は同32万1000バレル減とこちらは7週連続の減少。中間留分の生産量は日量405万4000バレル(同25万3000バレル減)と減少し、輸入量も同10万1000バレル(同3万バレル減)と小幅に減少した。一方需要は同380万バレル(同12万8000バレル増)と増加した。前週対比では需要増供給減の構図から、予想に反して在庫は減少に転じた。11日の全米ディーゼル油小売価格は407.8セント(前週比10.2セント高)と3週連続の値上がり。2008年9月上旬以来の高い水準。

原油および石油製品在庫の合計(SPRを除く)は、10億3740万バレルと前週比500万バレル減、前年同期比1.1%減。

「ブタジエンの長期売買契約を締結 = 双日」

双日は13日、南米最大の石油化学会社であるブラジルのプラスケムと、ブタジエンの長期売買契約を締結したことを明らかにした。2011年4月より5年半に亘り、ブタジエンを安定的に調達する。今回のブタジエン長期販売契約を通じて、戦略的パートナーシップをさらに強化し、より付加価値の高いブタジエン誘導品の事業化検討を進める。具体的には、タイヤ用合成ゴムやABS樹脂等の製造・販売の事業化に向けて、アジアのメーカーを誘致し、C4ケミカルチェーン展開の拡充を図る予定。なお、同社は40年におよぶ取引関係を有するプラスケムの最大外国人株主であり、プラスケムの親会社オーデブレイトとの共同出資会社ETH Bioenergia S.A.にて、バイオエタノール・砂糖製造事業を展開し、プラスケムがバイオエタノールとC4留分イソブチレンから製造するバイオマス燃料ETBEの輸出販売も手掛けている。

「社名をTRINSEOに変更 = スタイロン」

米化学大手スタイロンは13日、社名を2011年後半にTRINSEOに変更することを明らかにした。米化学大手ダウケミカルの元事業部門であるスタイロンは、昨年6月のペイン・キャピタル・パートナーズへの売却成立を受け、新会社として設立された独立型株式非公開企業。素原料から顧客、エンドユーザーを共通にする、プラスチックおよびゴム、ラテックス事業という独自の製品ポートフォリオを有した世界規模の大手原料メーカー。売上は約50億ドル(2010年度)、世界に20ヶ所の生産拠点を有す。

Daily Market Report

2月のABS輸入単価、安値トップ10

2011年2月のABS輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比761トン減の2093トン、輸入価額は4億2431万6000円となった。原産地別輸入数量の割合は、韓国が40%、台湾が36%、マレーシアが12%、中国が11%、タイが1%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比3円安の203円/kg。貿易統計上のABS統計値は、汎用品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用品の輸入単価が概ね予想可能となる。マーケットから大きく異なる輸入品は掲載対象から外す。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、右表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
大阪	マレーシア	64,000	10,410	163	1,950 - 1,989
名古屋	マレーシア	48,000	7,808	163	1,950 - 1,990
新潟	マレーシア	16,000	2,661	166	1,994 - 2,034
東京	マレーシア	130,000	22,699	175	2,093 - 2,136
敦賀	韓国	83,000	14,817	179	2,140 - 2,183
清水	台湾	91,000	16,492	181	2,173 - 2,217
門司	台湾	3,000	544	181	2,174 - 2,218
和歌山	韓国	38,000	7,023	185	2,215 - 2,260
千葉	台湾	16,000	2,983	186	2,235 - 2,280
福山	韓国	19,000	3,591	189	2,266 - 2,312

(出所:財務省)

2月のGPPS輸入単価、安値トップ10

2011年2月のGPPS輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比905トン減の1253トン、輸入価額は1億6726万1000円となった。原産地別輸入数量の割合は、台湾が58%、韓国が15%、タイが11%、中国が11%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比6円高の134円/kg。貿易統計上のPS統計値は、一般品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで一般品の輸入単価が概ね予想可能となる。マーケットから大きく異なる輸入品は掲載対象から外す。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、右表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
四日市	台湾	140,000	16,999	121	1,456 - 1,485
名古屋	タイ	39,000	4,903	126	1,507 - 1,538
東京	台湾	106,700	13,417	126	1,507 - 1,538
大阪	中国	114,000	14,349	126	1,509 - 1,539
大阪	韓国	48,500	6,154	127	1,521 - 1,552
博多	台湾	18,000	2,284	127	1,521 - 1,552
和歌山	韓国	18,500	2,389	129	1,548 - 1,579
名古屋	韓国	120,000	15,514	129	1,550 - 1,581
大阪	台湾	311,000	40,236	129	1,551 - 1,582
名古屋	台湾	12,000	1,571	131	1,569 - 1,601

(出所:財務省)

2月の韓国合成樹脂輸出

韓国の2011年2月のポリオレフィン、PS、ABSなど合成樹脂輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出TOP3		
				国	数量(mt) FOB KOREA	
PP (ホモ)	53,915	89,227,643	1,655	中国	30,168	1,628
前月比	▼9,446	▼10,960,690	74	香港	5,226	1,625
前年同月比	▼5,522	6,238,323	259	ベトナム	4,344	1,603
PP (コポリマー)	104,595	173,548,387	1,659	中国	46,927	1,640
前月比	▼17,593	▼21,898,991	60	香港	6,980	1,630
前年同月比	▼1,643	23,439,855	246	インドネシア	5,437	1,677
LDPE	16,989	30,959,759	1,822	中国	5,094	1,652
前月比	▼1,189	▼1,184,843	54	台湾	1,910	1,885
前年同月比	▼3,580	▼3,250,902	159	インド	1,642	1,892
LLDPE	36,430	54,504,178	1,496	中国	14,184	1,457
前月比	▼11,672	▼14,694,033	58	ベトナム	3,324	1,549
前年同月比	▼2,412	▼2,086,901	39	日本	3,124	1,564
HDPE	81,859	117,770,254	1,439	中国	52,294	1,416
前月比	▼15,683	▼19,787,659	28	ロシア	3,575	1,484
前年同月比	▼315	2,556,235	37	カザフスタン	3,301	1,480
GPPS	18,282	29,393,639	1,608	中国	3,644	1,501
前月比	1,856	2,439,653	▼33	アルジェリア	2,026	1,576
前年同月比	5,355	8,477,530	▼10	メキシコ	1,456	2,038
HIPS	25,181	45,097,551	1,791	中国	9,469	1,708
前月比	▼2,736	▼4,113,821	28	香港	3,783	1,821
前年同月比	3,381	9,822,658	173	ベトナム	1,877	1,739
ABS	110,476	275,157,844	2,491	中国	43,643	2,492
前月比	575	6,670,956	48	香港	20,757	2,357
前年同月比	10,648	76,906,899	505	メキシコ	4,319	2,651
PVC	44,384	50,358,927	1,135	インド	14,610	1,038
前月比	▼6,881	▼5,707,800	41	中国	8,335	1,290
前年同月比	▼1,438	2,069,287	81	イラン	6,602	1,096

(出所:韓国貿易協会)